

それが、まさしくあなたの命

申命記 30 : 15 - 20



司祭 ヨハネ 井田 泉

2016年9月4日
聖霊降臨後第16主日

奈良基督教会にて

「あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。それが、まさしくあなたの命であり、あなたは長く生きて、主があなたの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われた土地に住むことができる。」申命記 30:20

今日は旧約聖書日課、申命記第 30 章からお話しします。申命記は旧約聖書の第 5 番目の書物ですが、皆さまはどの程度この申命記になじみがあるでしょうか。

申命記には、モーセを通して語られた神の掟が数多く記されています。「掟」「戒め」というと、硬い、むつかしい感じがするかもしれませんが、この申命記の底に脈打つように流れているのは神さまの愛です。わたしたちが滅びることを願われない神、わたしたちが生きることを願われる神の激しい思いが、この申命記には込められているのです。

遠い昔にまとめられた申命記の言葉は、後の時代に生きて働きました。その顕著な例をイエスさまの生涯に見ることができます。

主イエスが 30 歳のとき、公の活動を開始される前に、40 日間ひとり荒野で過ごして断食されたとき、悪魔の誘惑に遭って苦しみました。第 1 はパンの誘惑、第 2 は英雄となって人々の賞賛を得る誘惑、第 3 は世の富を得るために悪魔に屈服する誘惑です。その三つの誘惑のとき、イエスはいずれも、聖書の言葉によって悪魔の誘惑を退けられました。三つの誘惑に対する三つの聖書の言葉。その三つは、実はすべて申命記の中の言葉だったのです。

イエスさまのうちには聖書の言葉、とりわけ申命記の言葉が宿っていて、ぎりぎりの試練と危機のとき、申命記の言葉が生きて働いてイエスさまを守ったのです。

イエスさまの場合だけではありません。わたしたちの試練と危機のとき、聖書の言葉はわたしたちを守ってくれます。言い換えれば、神さまは聖書の言葉によってわたしたちに働きかけ、わたしたちを守り導かれる。そのような経験を、わたしたちも重ねていきたいと願います。

申命記には「**宝の民**」(7:6 ほか)という言葉が何度か出て来ます。神によって集められ、神を信じて従う人々は、神さまにとって「宝の民」。この上なく尊い、かけがえのない大切な存在、宝物——「宝の民」。神はわたしたちをそう呼ばれるのです。

さてその申命記ですが、舞台は、イスラエルの民がエジプトを脱出し、40年の長い荒野の旅をして、ようやく約束の地を目前にするモアブという所に至った、という場面です。モーセはここまで民を導いてきたものの、自分は約束の地に入ることはできず、世を去らなければならないことを自覚していました。そこでモーセはイスラエルの民をモアブの地に集めて、自分の遺言として、皆がこれから歩むべき道を強く示したのです。

モーセには非常な心配がありました。自分がいなくなったあと、人々は約束の地に入り、やがて豊かな生活に慣れて、神から離れていくだろう、という心配です。人々は神から離れて自らの命を枯渇させるとともに、平気で真実を曲げ、弱い立場の人々を踏みつけるようなことになるだろう。そのようにして、

神がご自身の宝として愛しておられる人々が、神に背いて滅びていくかもしれない。これはモーセにとって耐えがたいことでした。

そこで今、モーセは厳しい言葉をもって人々に警告し、決断を迫ったのです。

「見よ、わたしは今日、命と幸い、死と災いをあなたの前に置く。わたしが今日命じるとおり、あなたの神、主を愛し、その道に従って歩み、その戒めと掟と法を守るならば、あなたは命を得、かつ増える。あなたの神、主は、あなたが入って行って得る土地で、あなたを祝福される。

もしあなたが心変わりして聞き従わず、惑わされて他の神々にひれ伏し仕えるならば、わたしは今日、あなたたちに宣言する。あなたたちは必ず滅びる。ヨルダン川を渡り、入って行って得る土地で、長く生きることはない。

わたしは今日、天と地をあなたたちに対する証人として呼び出し、生と死、祝福と呪いをあなたの前に置く。あなたは命を選び、あなたもあなたの子孫も命を得るようにし、あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。それが、まさしくあなたの命であり、あなたは長く生きて、主があなたの先祖アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われた土地に住むことができる。」 30:15-20

人々は分かれ道に立っています。生と死。祝福と呪い。命と滅び。どちらをあなたは選ぼうとするのか。あなたは命を選びなさい。命の神を選びなさい。滅びではなく、生きる道を選び

なさい。

モーセがこのような厳しい言葉によって人々に選択を迫ったのは、人々があまりに頼りないからです。他のことには熱心であったとしても、他のことには一生懸命になっていたとしても、神さまに対して熱心ではない。信仰においては一生懸命ではない。そのままでは危うい。モーセの厳しい言葉の中には、神の激しい愛が燃えていました。

今、モーセの呼びかけの一言をわたしたちも大切に聞きましょう。

「あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。」
30:20

「あなたの神、主」 神はあなたの神なのです。他人の神ではない。あなたを産み出し、あなたを見守り、気遣いつつ、あなたを保っておられる神です。

「あなたの神、主を愛し」 このことをわたしたちは多くの場合忘れていきます。いや、まだ理解していないのかもしれませんが。求められている第1のことは**「主を愛する」**ことです。神がわたしたちを愛し求めいてくださるので、わたしたちをも神を愛し求めるのです。

神についてただ話題にするのではなく、神について議論するのではなく、神からの温かな光を浴びて、神の愛の甘い水を飲んで、神によって潤される。神がわたしを喜んでいてくださる

ので、わたしも神を喜び、神を求め神を慕い、神を愛するので
す。

「御声を聞き」 神の声を聞く。聞くためにわたしたちは神
に対してまっすぐになります。神の前に静かになります。聞こ
うとして心の耳を澄まします。

「主につき従いなさい」 主について行きます。離れずに従
って行きます。

「あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。
それが、まさしくあなたの命である。」 30:20

ここにこそわたしたちの命があります。

このことは、遠い昔のモーセの時代の人々にとっても、わた
したちにとっても、まったく同じです。あなたは命を選びなさい。
い。

ただ、モーセの時代の人々よりもわたしたちのほうが恵まれ
た中にいます。なぜなら、信仰の弱いわたしたちのために救い
主イエス・キリストがいてくださるからです。

イエスさまがわたしたちを愛しておられるので、わたしたち
もイエスを愛します。

イエスがわたしたちに語りかけてくださるので、わたしたち
はその声に耳を澄まして聞きます。

主イエスがわたしたちを捕らえて離されないので、わたした

ちはしっかりついていきます。

それでももし、わたしたちが確信がなかったり、迷いがあつたり、無力を感じたりするときはどうなのでしょう。

そのようなわたしたちを、主イエスがみずから引き寄せてください。

「わたしは地上から上げられるとき、すべての人を自分のもとへ引き寄せよう。」ヨハネ 12:32

これがわたしたちに対する主イエスの約束です。

祈りましょう。

引き寄せてください、主よ、みもとにわたしたちを引き寄せてください。愛させてください、あなたを。あなたの御声を聞かせ、あなたにつき従わせてください。あなたとともにあることこそがわたしたちの命です。アーメン